

## 事務事業評価表（補助金等）

1次評価日（主幹等） 30年3月31日

2次評価日（課長等） 30年3月31日

1 事業名	平和体験研修事業負担金		コード	101115
2 担当部課	部等	教育部	課等	教育総務課
	担当者	高橋卓		
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち	
		政策	生涯学習の推進	施策 学校教育の充実
		事務事業	平和体験研修事業負担金	
		予算科目	教育施策推進事業	業務委託 なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助 なし
	根拠法令等	なし		

## ●事業の内容（D0）

4 補助等の内容	* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容		
① 性質	負担金	② 期間	年度 ~ 年度
補助金の種別	その他事業補助	③ 対象	その他
④ 制度の内容	岡谷市校長会が実施する平和体験研修事業に対して、必要経費を負担する。		
⑤ 積算方法	平和体験研修 8月5日～7日（2泊3日）に係る経費から参加者負担金を差し引いて算出。 参加者28人（中学2年生19人、引率教職員8人）※生徒1名不参加となっている。 ※参加者負担金 11,000円/人×28人=280,000円		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加生徒が生命の尊さや平和の大切さを実感し、21世紀を平和の世紀とするために努力する強い意志と態度を育み、さらには、他人の痛みを理解し、思いやる広い心と愛を育て「いじめ根絶」を推進する契機とする。</li> <li>参加生徒が、学んできたことを各学校で還元することで、多くの生徒の平和学習に寄与する。</li> <li>参加者の費用が軽減され、参加しようとする生徒が増える。</li> </ul>		

## 5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数	1	1	1	1
実際の支出件数	1	1	1	
執行率	100.0%	100.0%	100.0%	
② 金額（円）				
予算額	974,000	974,000	974,000	1,027,000
財源内訳	974,000	974,000	974,000	1,027,000
一般財源				
特定財源				
* 特定財源（負担割合）の説明				
実際の支出金額	974,000	974,000	974,000	
予算執行率	100.0%	100.0%	100.0%	
支出額の前年度比		100.0%	100.0%	

③ 29年度の交付先

岡谷市校長会

## ●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		*妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)	
評価項目		はい	いいえ		
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1			5
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。	1			4
③	全ての対象者に交付している。	1			
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。		0		
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1			
⑥～⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)		高い	
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。	1			5
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。	1			9
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。	1			
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。	1			
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、用途を検証している。	1			

7 有効性評価		*有効性=成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性		高い	
評価項目		はい	いいえ				
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1					
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1					
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1					
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。	1					
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比	100.0%	1		

## ●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和体験研修後の取り組みの充実 (いじめ根絶、生徒会活動、文化祭での発表等)</li> <li>人数に制限があり、希望者全員が参加できない場合がある。</li> </ul>
改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加生徒が学んできたことをより多くの生徒や市民に還元するために、研修の参加生徒を2年生とし、より時間をかけた取り組みが行えるようになっている。</li> <li>体験研修の内容発表の場を拡大するなど、各学校において積極的に取り組む。</li> <li>参加者は、いじめ根絶子ども会議に出席する。</li> </ul>
改善開始時期	平成30年4月

## ●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------